
ホットニュース(平成15年度／第64号)

●今月の業界ホットニュース／路地によるまち再生

最近、まち歩きで路地のある街に行く機会が多い。

神楽坂に行った。ほとんどの料亭がもう営業していないようだが、路地に囲まれた地では、大きな建物も建てられず、そのまま一般の飲食店になっているのも多く、路地の風情は残されている。ここには、「NPO法人粋なまちづくり倶楽部」があり、路地の魅力を活かしたまちづくり活動に取り組んでいる。

以前、京島の路地について触れたが、ここは下町の住宅地でコミュニティの見える街であった。神楽坂では、商業的な利用をされていても、手作りの生業的な匂いのする商いであり、コミュニティを大切にしている感じが見受けられる。

趣は異なるが商業集積地でも、渋谷や吉祥寺の路地は面白い。大きな店はなく個店の個性的な雰囲気、路地の活気に結びついているようだ。

歓楽街、歌舞伎町も路地が多い。しかし、ここはゴールデン街はともかく、他は何でもアリでおじさんが歩いても疲れるだけだ。横浜黄金町の路地。「うーん、ここは日本か?」と感じる。どうしてこんな空間ができたのか、理解不能。

いずれにしても路地空間は魅力的で地域の個性を感じる。路地logyを勉強して、まちの再生に活かしたら面白いと思う。

(代表取締役 堀田 紘之)

●全国都市再生モデル調査

内閣官房都市再生本部の発信だが、「全国都市再生のための緊急措置」の幅広い展開のため、「全国都市再生モデル調査」が実施されることになった。先導的な都市再生活動を募集・選定し、10億円を限度として関係省庁に配分される。

この10億円は、小泉さんと我が業界巨塔が、真偽の程は明かではないが、カレーを食べながら決めたとの噂である。全国の自治体等からの応募により選定するものだが、8月8日が締め切りである。

応募条件は、・元気が出る、・先導的である、・観光の推進など地域活性化策である、・モデルとなる、・平成15年度中に調査が実施できる、などである。

これも聞いた話だが、お金の流れは、任意の調査に対して、国(関係省庁)がある財団に発注し、この財団がコンサルを使って調査を行うというスタイルらしい。関係する自治体やNPOなどは委員会やイベントなどで協力するとか。この前の「歩いて暮らせる街づくり調査」に似ている。

“コンサル”と聞いて放っておく手はないと思い、早速いくつか打診した。

詳しくは、以下でご覧になれます。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tosisaisei/siryuu/030709bosyuu.html>

(第二計画部長 高尾 利文)

●合意形成

合意形成。我々コンサルタントにとっては業務の一部であり、かなり重要な部分を占めている。例えば、ある政策・計画に対しての庁内調整、事業に対しての関係機関協議、地元住民への説明。また、最近では計画段階

からの住民参加の形態も増えているため、この中での意見調整も重要な業務の一つである。しかし、どの場面においてもこれがなかなか難しい。

以前、ある事業者に「協議資料は、関係機関が絶対に事業を認めるような内容とするように」との要望が出された。事業者側からみれば当然の要求であるが、相手があることなので「絶対」というのは難しい。その旨を伝えるとかなりご立腹の様子だった。しかし、想定される意見や要望に対して万全に準備したつもりが、常識的には考えられない意見が出されることもある。

上記とは別業務であるが、ある新設道路整備計画(当初案)に対して、協議先である交通管理者(個人)から出された意見は、計画変更を求めるものであり、変更案は常識的には考えられない道路線形の提示だった。その交通管理者には「事業者が提示した計画(当初案)を取り下げなければ、協議は継続しない。それでも整備したいのであれば公道としては認めない」とも言われた(同席した部下の方はかなり困っていたが)。

このようなケースは極希ではあるが、首を傾げたくなるようなことは少なくない。専門知識や経験がある協議先の担当者でもこうである。ましてや一般の方を対象とした説明会等では、説明者の考えを伝え、理解してもらうのはかなり難しい。しかし、合意形成無しでは何も始まらない。

(第一計画部 主任研究員 野澤 雅一)

アルメックホットニュース(平成15年7月15日発行)

////////////////////////////////////